



湾岸・アラビア半島地域ニュース

バハレーン：GCCの物価上昇と就業意識

(2月22日付現地紙)

1. バハレーンでは、賃金の上昇がインフレに追いついていないことが最新の調査で明らかになった。求人サイトの Bayt.com と調査会社 YouGovSiraj 社によれば、昨年バハレーンの平均賃金は13%上昇したが、生活費の上昇率は19%と賃金上昇を大きく上回った。調査によれば、湾岸諸国での生活費の負担増は賃金増加額を上回っており、その結果、労働者の不満が高まり、労働市場の不安定要因になっているという。
2. 湾岸地域全体では、昨年の賃金上昇率は15%であったのに対して、生活費の増加は24%に達した。本調査では、湾岸6カ国の政府部門及び民間部門の従業員へのアンケートも実施した。民間部門のアンケートは自動車産業、製薬業など20を超える業界で行った。国別では、カタールとクウェートの賃金上昇率が17%で最も高く、UAEが15%でこれに続いている。又、官民別では、民間部門の労働者が平均17%の所得増となったのに対し、政府部門の賃金上昇は13%に止まっている。
3. Bayt.Com 社のラビーア代表は、調査結果について、「湾岸地域の経済発展は著しく、人材不足が深刻化しつつあり、労使双方ともこうした状況を理解する必要がある。業種別で昨年最も上昇率が良かったのは金融・銀行部門の19.5%で、最低は医師も含めた健康・医療関係の専門職の11.2%だった」と述べた。
4. YouGovSiraj 社のナシム代表は、アンケート調査結果に関し、「Bayt.com のウェブサイトに登録している27万人以上に詳細な質問を行った。様々な業種の多様な専門職であり、この地域では最も規模の大きな調査が出来た。GCC 各国の20を超える業種で働く人々の労働条件や勤労意識、就業行動等に正面から取り組んだ質問を行った」と述べた。ナシム氏によれば、二桁の賃金増にもかかわらず、湾岸地域に専門職労働者は更なる賃金を求めており、バハレーンとUAEの労働者が、自分達の価値が最も高いと考えている。
5. 又、転職理由としては、賃金の多寡ではなく、成長の機会がないことが第一位に挙げられた。雇用主は、従業員に対して十分な給与を支払うだけでなく、従業員のキャリアアップや成果をきちんと認めることにも注意を払う必要がある。在職中に他の仕事を探しているとの回答は60%にも上った。従って、雇用主は、従業員の給与体系や昇進の与え方についても良く考えておかなければならない。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799